

三小だより

9月号

できていないことをしかるより、できていることをほめよう

校長 藤本 賀津雄

長かった夏休みも終わり、今日から学習が始まりました。これまでひっそりしていた学校が、子どもたちの元気な声で一気に賑やかになりました。やはり学校はこうじゃないといけませんね。今年の夏も海・山での事故や大雨による災害など、痛ましい報道が相次ぎました。本校では大きな事件や事故もなく九月を迎えることができホッとしているところです。

ところで、この夏楽しい思い出がたくさんできた子もいれば、これといった思い出もなく夏休みが終わってしまったという子もいます。宿題をテキパキと終えて早く自由になった子もいれば、8月末になって宿題に追われた子もいることでしょう。しかし、どの子も同じように今日から学習のスタートです。「早寝・早起き・朝ごはん」の日常生活のリズムを早く取り戻し、勉強や運動に頑張ってもらいたいと思います。また、まだまだ厳しい残暑が続きます。当分の間、水筒やタオルは毎日持たせるなど、子どもたちの体調管理をよろしく願います。



さて、先日ある新聞のコラムの欄に将棋で有名な米長邦雄さんのことが書かれていました。小学一年生の時に、詰将棋の正解を当てたところ「天才だ」とほめられたそうです。この時米長少年は、詰将棋のルールすら分かっていなく、当てずっぽうの正解だったらしいのですが、「将棋を知らなくて答えを出したのなら、なおいい。天才だ！」と先生にすごくほめられたそうです。すっかりその気になった米長少年は、その後「天才」の名に恥じないよう努力を重ねたそうです。

人間は誰でも無限の可能性を秘めています。その能力を引き出してやるのが教育です。できていないことを叱られてばかりいたのでは、だんだんと自信がなくなり意欲も低下します。逆にちょっとしたことで「君はすごい！」「天才だ！」「すばらしい！」と、できたことをほめられたら、自尊心が育ち、何事にも意欲的になります。

私の知り合いで電気工事の仕事をしている方がいます。以前、難関といわれる第一種電気工事士の資格を取得されたときの話題になりました。40歳を過ぎてから、かつてこれ程がんばったことはないというぐらい猛勉強して合格されたそうです。勉強ざらにだった子どもの時にこれぐらい頑張っていたら、自分はどんなすごい人間になっていただろうと話されていました。大人になっても目標を定めて頑張れば、すばらしい結果が出ます。まして、子どものころに夢や目標をもって意欲的に頑張ったら、人生の可能性は一段と大きく広がってきます。

毎日子どもと接していると、ついできていないことが目に付きますが、今日から視点を変えて、できていることを大げさにほめてやってください。